

事業名	初午祭交通安全対策支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰返し
	課	産業政策課		初午祭交通安全対策支援		款	7	新規or継続	継続事業
	係	産業政策係		事業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	121	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意の事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	初午祭交通安全実行委員会 会交付金交付要領	事業期間	開始年度	S51	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	旧暦2月の初午に近い金・土・日曜日に開催される初午祭りを安全に行うため、田沼初午祭交通安全実行委員会（佐野市あそ商工会、一瓶塚稻荷神社、周辺町会、商店街、佐野警察署などで構成）の活動を支援する。本実行委員会は、初午祭の開催について、広報活動や当日の交通整理等を行っている。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	田沼初午祭交通安全実行委員会に交付金を交付することで、初午祭の無事故の運営が図られる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		初午祭来場者数	人	54,000	54,500	55,000	55,500	56,000
		会場内・付近での事故発生件数	件	0	0	0	0	0

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	令和5年度は、初午祭が5年ぶりに交通規制を伴って実施されたことから、300千円の交付金を支出した。	活動指標	単位	R3	R4	R5
		交付金支出回数	回	1	1	1
		事業費計	千円	0	0	300
		一般財源	千円	0	0	300
		特定財源（国・県・他）	千円			
		(うち受益者負担)	千円			

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	初午祭が事故なく運営できた。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		初午祭来場者数	人	0	0	66,310	値が大きいくらい良い	効果が上がった
		会場内・付近での事故発生件数	件	0	0	0	値が小さいほど良い	効果は変わらない

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標				
	効果が下がった指標数	0指標				
	指標全体	効果が上がった				
				費用は下がった		
				費用の増減無し		
				費用が増加した	○	

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

初午祭交通安全実行委員会が行う交通規制の案内周知、財政支援を継続する。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明

仕事の振り返りシート（令和 5 年度実施分）

作成・更新日 令和6年8月5日

事業名	壱番館公衆トイレ維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課			款	7	新規or継続	継続事業
	係	産業政策係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	121	名称		目	2	義務or任意	任意の事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	事業期間	開始年度	平成14年度	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	・中心市街地の活性化の拠点施設として設置された葛の里壱番館の公衆トイレ（葛の里壱番館東側)の維持管理を行う事業である。 ・維持管理は、まちづくり葛生(株)に委託して維持管理を行う。 ・トイレ周辺の立木の害虫駆除、剪定なども行う
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	来訪者(市民・観光客等)がいつでも快適に公衆トイレを利用することができるよう維持管理を行う。
-------------------------	--

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
地域市街地(葛生)における定住人口	人		1,963	1,951	1,940	1,928
施設維持管理上の来訪者からの苦情件数	件	0	0	0	0	0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・公衆トイレの維持管理をまちづくり葛生(株)に委託した。 ・公衆トイレの手洗い器の修繕を行った。(4月) ・ポケットパーク南側の生垣の剪定を実施した。(7月)
--------------------------	--

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
トイレ清掃作業の延べ日数	日	365	365	365
周辺立木の害虫駆除等回数	回	1	1	1
事業費計	千円	0	1,014	1,116
一般財源	千円		1,014	1,116
特定財源（国・県・他）	千円		0	0
(うち受益者負担)	千円		0	0

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	適切に維持管理を行い、来訪者に快適に施設を利用してもらえた。
------------------	--------------------------------

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
地域市街地(葛生)における定住人口	人	1,921	1,868	1,809	値が大きいか良い	効果が下がった
施設維持管理上の来訪者からの苦情件数	件	0	0	0	値が小さいほど良い	効果は変わらない

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 0指標
	効果は変わらない指標数 1指標
	効果が下がった指標数 1指標
	指標全体 効果が下がった

※ 10万円以上の増減により判断

効果			
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用	費用は下がった		
	費用の増減無し		
	費用が増加した		○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

維持管理を委託しているまちづくり葛生(株)から当該施設へのいたずらによる破損の報告があったが、早急に修繕を行ったことで、施設維持管理上の苦情は発生しなかった。今後も来訪者の方に快適に利用していただけるよう、適切に管理を行う。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

取組説明
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

事業名	葛生街路灯維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	産業政策課				葛生街路灯維持管理事業	款	7	新規or継続	継続事業
	係	産業政策係					項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	121	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業期間	開始年度	平成7年度	実施方法	直営	
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業	
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化							

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	・原人ロード街路灯（28基）の電気料金は、市70%、町会30%の負担割合で、町会の負担分は町会が年2回（上半期分と下半期分）に分けて市に納入する。 ・街路灯の撤去は葛生町街路灯維持管理委員会が平成27年度と平成28年度の2カ年かけて行い、撤去費用の50%を市補助金として平成27年度と平成28年度に支出する（撤去費用の負担割合は市50%、葛生町街路灯維持管理委員会20%、町会30%）
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	葛生地区内街路灯の適切な維持管理を行い、市民・来訪者が安全・快適に生活、事業活動を行うことができる。
-------------------------	--

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
施設維持管理上の苦情件数	件	0	0	0	0	0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・原人ロード街路灯(28基)の電気料金及び一般街路灯(従来より市の管理3基)の電気料金、街路灯31基の施設所有(管理)者賠償責任保険料を支出。 ・照明の修繕を実施した(2月)
--------------------------	---

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
人口	人	####	####	####
街路灯設置数	基	31	31	31
事業費計	千円	0	697	698
一般財源	千円		697	698
特定財源（国・県・他）	千円		0	0
（うち受益者負担）	千円		0	0

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	利用上の苦情もなく、利用者の方に快適に使用してもらうことができた。
------------------	-----------------------------------

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
施設維持管理上の苦情件数	件	1	0	0	値が小さいほど良い	効果は変わらない

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標				
	効果が下がった指標数	0指標				
	指標全体	効果は変わらない				

費用	費用は下がった			
	費用の増減無し		○	
	費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・令和5年度に関しては、施設維持管理上の苦情はなかった。
・旧葛生町において、平成6年に老朽化した街路灯を全て設置し、その管理運営を行うため、平成7年2月に葛生町街路灯管理委員会を設置し、同委員会に対して、旧葛生町で電気料の補助を実施した。その後、平成23年2月、補助金等交付検討委員会から、「(他地区では街路灯の補助は実施していないため)他地区との整合性を考えた上で、防犯灯に対する補助との関連を整理すべきである。」との提言を受けた。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
--	------

事業名	地域市街地活性化推進事業	実施計画事業or一般事業		実施計画事業	市長公約	3-①	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性		SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	産業政策課				地域市街地活性化推進事業	款	7	新規or継続	継続事業
	係	まちなか活性化係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	121	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		事業 期間	開始年度	R4	実施方法	一部委託	
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	—	事業分類	その他市民に対する事業	
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化							

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	地域市街地（田沼駅及び葛生駅周辺地区）の活性化策を講じるために必要な調査、研究及び資料を作成する。地域市街地活性化のにぎわいを創出するため、「まちなか地域おこし協力隊員」を設置する。
------	---

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	低未利用な空き物件や空き地を減らし、人流・店舗を増やす。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		地域市街地歩行者通行量（平日・2カ所）	人	750	800	850	900	950
		地域市街地空き店舗活用件数（累計）	件	2	4	6	8	10

（3）目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R5年度に行った主な活動内容）	【調査実施】 歩行者通行量調査、空き店舗調査、宇都宮大学学生との現地聞き取り調査、協力隊員との現地聞き取り調査 【地域おこし協力隊員の委嘱】 ・報償費や活動経費の支給 ・活動の支援（イベント企画4回 他） 【関係団体等との連携した取組み】 ・宇都宮大学「地域プロジェクト演習」による学生との協働 ・あそ商工会とのイベント連携や地域情報の共有	活動指標	単位	R3	R4	R5
		調査実施数	件	3	3	4
		地域おこし協力隊員の数	人	1	1	1
		関係団体等との連携した取組数	件	0	2	2
		事業費計	千円	0	139	4,122
		一般財源	千円	0	139	4,122
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明 （定量及び定性）	各種調査や取組みを進める中で、直接かかわりを持った者や情報発信を行った対象者などに対して、当該地域について考える機会を提供することができた。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		地域市街地歩行者通行量（平日・2カ所）	人	708	890	1,067	値が大きいほど良い	効果が上がった
		地域市街地空き店舗活用件数（累計）	件	2	2	3	値が大きいほど良い	効果が上がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断		効果		
効果 （R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数	2指標	費用	費用は下がった	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標		費用の増減無し			
	効果が下がった指標数	0指標		費用が増加した	○		
	指標全体	効果が上がった					

4. 次年度に向けた検討

（1）令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

調査や直近での取組みに対する反響等を踏まえて、中長期的な効果を見据えて臨機応変に取組むことが必要である。また、宇都宮大学との連携については、田沼地域は令和6年度が最終年度となるため、令和7年度以降も連続性を損なわないような取組みの検討が必要である。 現地地域おこし協力隊員についても令和6年度が最終年度となるため、令和7年度以降の協力隊制度活用の検討が必要である。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☒ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
	民間主導で地域の活性化が推進されるよう、関係者を巻き込みながら必要とされる場づくりや仕組みづくり、地元高校や大学との連携についても検討する。地域おこし協力隊制度については、地域課題を明確にしたうえで、令和7年度の募集を検討する。

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年7月31日

事業名	くずう原人まつり支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰返し
	課	産業政策課		くずう原人まつり支援事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	産業政策係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	121	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	くずう原人まつり事業費補助金交付要領	事業期間	開始年度	S63	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり			終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	村おこし実行委員会（佐野市あそ商工会、市、各団体、市内事業者で構成）が主催する「くずう原人まつり」の活動を支援する事業である。嘉多山公園を会場として、8月第4土曜日に開催（令和4年度からは9月下旬に開催）。原人ステージでの地元小中高校生などによる吹奏楽等をはじめ、古代体験イベント、朝市会売店、ふれあい動物園などを実施。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	むらおこし実行委員会に対して財政支援及び広報支援を行うことで、まつり内容の充実化と円滑運営、来場者数の増加が図られる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		くずう原人まつり来場者数	人	0	10,000	15,500	16,000	16,500

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	令和5年度は、9月23日（土）・24日（日）に開催され、各種ステージや体験イベント等を行った。 市としては、実行委員会に補助金2,500千円を支出。広報さの記事掲載、広報さの9月号と同時にチラシの全戸配布、報道機関に情報提供を行った。	活動指標	単位	R3	R4	R5
		広報さの記事掲載回数	回	0	1	1
		事業費計	千円	0	2,500	2,500
		一般財源	千円	0	2,500	2,500
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	まつり来場者数は、増加傾向にある。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		くずう原人まつり来場者数	人	0	13,000	16,000	値が大きいほど良い	効果が上がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	費用	費用は下がった	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標		費用の増減無し	○		
	効果が下がった指標数	0指標		費用が増加した			
	指標全体	効果が上がった					

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

くずう原人まつりの広報周知・財政支援を継続する。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年7月31日

事業名	たぬまふるさと祭り支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	産業政策課			款	7	新規or継続	継続事業
	係	産業政策係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	121	名称		目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	1	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり	事業期間	開始年度	S51	実施方法	直営
	政策	2	地域資源を活かしたまちづくり		終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	中心市街地及び地域市街地の活性化					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	たぬまふるさと祭り実行委員会（佐野市あそ商工会が事務局）が主催する「たぬまふるさと祭り」の活動を支援する事業である。平成25年度までは田沼中央公園を、平成26・27年度は田沼庁舎と市民病院の間の市道を歩行者天国にして会場とし、平成28年度には田沼庁舎駐車場を会場としてきた。令和4年度以降は、佐野市国際クリケット場にて10月下旬ごろ開催された。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	たぬまふるさと祭り実行委員会に対し財政支援や広報支援を行うことで、祭り内容の充実化と円滑運営、来場者数の増加が図られる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		たぬまふるさと祭り来場者数	人	0	20,000	20,500	21,000	21,500

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	令和5年度は、10月15日（日）にクリケット国際大会と同時に開催されたが、実行委員会に補助金1,700千円を支出し、広報さの10月号と同時にチラシの全戸配布、報道機関に情報提供を行った。	活動指標	単位	R3	R4	R5
		広報さの記事掲載回数	回	0	1	1
		事業費計	千円	0	1,220	1,700
		一般財源	千円		1,220	1,700
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	多少の増減はあるものの、来場者はある程度一定している。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		たぬまふるさと祭り来場者数	人	0	18,000	15,000	値が大きいほど良い	効果が下がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断			効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	費用	費用は下がった	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標		費用の増減無し			
	効果が下がった指標数	1指標		費用が増加した			
	指標全体	効果が下がった					○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

たぬまふるさと祭りの周知・広報活動・財政支援の継続

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------